

2020 年度事業報告および決算

2021 年 6 月 9 日



北陸経済連合会

2020 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（総合対策委員会）

アクションプラン実施項目	2020 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(1) 地方定着・地方回帰による定住人口増加に向けた取組み ①魅力ある仕事、職場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の技術開発や競争力の強化、人材育成に資する国・県等の支援制度の紹介（HP、トピックス、懇談会等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○当会HPによる国等の施策の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・「ITものづくりブリッジ人材育成セミナー～北陸・東海ものづくり企業のDX推進～」(中部経済産業局) ・「地方創生人材支援制度に関するご案内」「基礎から学ぶ「IoT 導入セミナー in 富山」の開催案内」(総務省北陸総合通信局 他) など 43 件発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・当会HPを主として、会報・トピックスも活用した紹介を継続
②北陸地域内大学との連携による人材育成および域内就業促進 <ul style="list-style-type: none"> ・「北陸のシェアトップ 100」等による北陸地域の優れた企業のPR ・北陸地域内企業のインターンシップ制度の導入促進 ・北陸地域内企業の優れた人材の大学への講師派遣の促進 ・国際人の育成（海外インターンシップの促進支援 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「北陸のシェアトップ 150」等による北陸地域の優れた企業のPR（「北陸のシェアトップ 150」の各大学への配布、周知、大学説明会等での活用） ・域内大学との連携 <ul style="list-style-type: none"> * 北陸産学連携懇談会（学長懇）：9/25 [富山県立大学] * 北陸産学連携交流会（部門長会議）：2019 年度からの延期分も含めて開催 ・北陸AJEC等との連携による域内大学留学生の域内定着（就業）支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○「北陸のシェアトップ 150」の配付 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸産学連携交流会で各会員大学の出席者(就職支援担当部署)に日本語版・英語版を配布（8月） ・北陸技術交流テクノフェア 2020 on the Web で「北陸のシェアトップ 150」のPRとダウンロードURLリンク(11月) ・北陸先端大主催の Matching HUB Kanazawa 2020 で配布(11/6) ○第7回北陸産学連携懇談会（学長懇）の実施（9/25） <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「近未来ビジョンの実現に向けた産学連携活動」 ○富山県立大学見学会実施（先端技術推進委との合同開催）(9/25) <ul style="list-style-type: none"> ・会員企業による富山県立大学の研究紹介・研究室視察 ○北陸産学連携交流会（部門長会議）の開催（8/6 実会議とオンラインの併用開催） <ul style="list-style-type: none"> ・懇談テーマ「学生（留学生含む）の北陸域内就業促進方策」→コロナ禍における域内就業促進の課題と取組みについても追加で意見交換を実施 ○大学（留学生就職担当課）との意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・金沢大学（10/8）、北陸大学（10/23）北陸先端大学（10/23）、富山大学（11/2）、福井大学（11/12） ○金沢大学、信州大学が取り組む『「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラム』に推進協議会委員として協力 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム推進協議会会合（11/26） ・「かがやき・つなぐ」プログラム事業継続検討委員会（1/28）→2022 年度以後の後継事業を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「北陸のシェアトップ 150」を機会あるごとに配付・説明し、北陸のニッチトップ企業の積極的なPRを実施 ・大学の「知」と連携した産業振興や国際経済交流等の推進、および北陸の「知」の拠点である大学の発展に向けた協力を継続 ・留学生と企業との相互理解のため、本音で語り合えるマッチングの場の提供等に向け検討 ・優秀な留学生の地元企業等への就職・定着に向け、大学とも連携しながら、「かがやき・つなぐ」プログラムならびに後継事業にも協力継続
③域外大学進学者等の UIJ ターンの促進 <ul style="list-style-type: none"> ・域外大学進学者に対する「北陸シェアトップ 100」等による北陸地域内の優れた企業のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・域外大学（関西圏大学の就職担当部門）と会員企業との情報交換会開催に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○北陸産学連携交流会（部門長会議、8/6）において、三県の UIJ ターン担当者から各県の施策を紹介 ○域外大学と会員企業の情報交換開催に向けた検討は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の収束後、検討再開

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>(2) 女性が働き続けられる社会の実現に向けた取組み</p> <p>① 女性部会の提言(女性の多彩な活躍のための施策に関するもの等)</p>	<p>・「女性が働きやすい北陸」とのブランドづくりに向けた取組みの検討と実施</p> <p>① 女性の流出対策</p> <p>② 女性の多彩な活躍の促進</p> <p>③ ダイバーシティ&インクルージョン</p> <p>・女性部会としての政府要望項目検討、政府要望活動への参加</p>	<p>○「女性の就業意識に関する実態調査」を実施し、結果概要を公表(10/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸三県出身の北陸三県在住ならびに首都圏の女性約1,500人が回答 ・北陸三県担当者と情報交換会を実施(1/26) ・東北経済連合会との情報交換会(3/18) <p>○第1回女性部会【オンライン会議】(5/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度女性部会の取組みおよび女性部会としての政府要望事項について検討 <p>○第2回女性部会【一部オンライン会議】(6/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つのテーマを設定、課題を深掘りしていくことや、会員企業との意見交換会を実施する等の方向性を検討 <p>○第3回女性部会【オンライン会議】(11/4)</p> <p>○第4回女性部会【オンライン会議】(2/5)</p> <p>○「北欧に学ぶ生産性向上と女性活躍」をテーマとした講演会実施(2/1)参加者約130名(講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐日フィンランド大使館一等書記官ニーナ・ヴァイサネン氏 ・フィンランドセンター所長 アンナ=マリア・ウィルヤネン氏 <p>○政府要望活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅野女性部会長が政府要望活動に参加(9/3) 	<p>・「女性の就業意識に関する実態調査」では、多くの会員企業と女性の協力があがり、多くのマスコミに取り上げられた。これを機会に北陸三県との連携も可能になった。</p> <p>・「女性の就業意識に関する実態調査」を踏まえ「選択できること」と「チャレンジできること」がポイントと認識。今後は、「女性の流出対策」と「北陸移住促進」の二つに絞り、さらに具体策を検討</p> <p>・フィンランド大使館の協力を得て、海外事例を聞くことができ、参加者から好評の声を頂いた。今後も幅広い視点からの取組みを実施していく。</p>
<p>(3) リタイア人材の活用</p>	<p>・国、自治体等が主催するセミナー、合同説明会、各種支援制度等の当会HP、懇談会等を活用した支援、紹介</p>	<p>○当会HPでの高齢者雇用に関する国・県の支援策、セミナー等に関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当会HP「シルバー世代の雇用」のページで、北陸三県、労働局および(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構の施策を発信 ・高齢者活用とダイバーシティをテーマとした講演会実施(10/5 石川会員懇談会) ・「国際社会貢献センター」の取組みに関するセミナー実施(12/16) 	<p>・今後も当会HPを活用した情報発信およびセミナー等への参加、開催を継続</p>
<p>(4) 二地域居住の推進支援</p>	<p>・北陸イメージアップ推進協議会HPとの連携による北陸の魅力PR、北陸域内の事例等の発信</p>	<p>○当会HPおよび北陸イメージアップ推進会議HPでの北陸の魅力、移住情報等の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当会HPの「二地域居住・移住」のページで北陸三県の暮らしやすさについて発信 <p>○「日本一の幸福度 北陸。」冊子発行(2021/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都道府県幸福度ランキング 2020年版」((一財)日本総合研究所刊行、2020/9改訂に伴い、北陸電力と協働して対応) 	<p>・今後も北陸イメージアップ推進会議HPとの連携による情報発信を継続</p> <p>・コロナにより働き方にも変化があり、テレワーク、ワーケーション等の面からのPRも実施していく。</p>
<p>(5) 魅力あるまちづくりに関する取組み</p> <p>① 北陸地域内の地域経済の専門家とのネットワークづくり</p>	<p>・北陸地域政策研究フォーラムとの連携</p> <p>・会員大学研究者の活用(会員懇談会等での講演)</p>	<p>○北陸地域政策研究フォーラムの開催支援(11/8)</p> <p>○当会主催講演会等での会員大学研究者による講演実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井工業大学 AI&IoTセンター長 芥子育雄氏(11/16 福井会員懇談会) ・北陸先端科学技術大学院大学 地域連携推進センター長 敷田麻実氏(11/25 広域観光推進委員会) 	<p>・今後も地域経済研究者との連携を深め、特に人文社会系のネットワーク構築に向けた取組みに注力</p>
<p>② PPP、PFI等民間活力の活用</p> <p>PPP(Public Private Partnership) : 官民連携</p> <p>PFI(Private Finance Initiative) : 民間資金活用</p>	<p>・地域プラットフォームへの参画</p> <p>・コンセッション方式(インフラ運営権の民間への売却)等、官民連携に関する勉強会開催</p>	<p>○セミナー等への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 第1回とやま地域プラットフォーム(8/26) ・ " 第1回いしかわ地域プラットフォーム(9/29) ・ " 第2回とやま地域プラットフォーム(12/22) ・ " 第3回とやま地域プラットフォーム(3/25) <p>○講演会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PPP/PFIの概要と活用事例に関する講演会(11/30) 	<p>・三県のプラットフォーム動向フォローを継続</p> <p>・PPP/PFIの理解促進に向けたセミナー等を継続開催</p>

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>(6) エネルギーセキュリティ強化に向けた取組み</p> <p>①原子力、再生可能エネルギーの推進</p> <p>②水素エネルギー、地熱、メタンハイドレート等の活用推進支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府要望への織込み ・ 経産局等への協力等（経産省事業等への後援、支援等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府要望への織込み <ul style="list-style-type: none"> ・ 当会単独要望活動（9/3,4）、三経連要望活動（10/14）、西日本経済協議会要望活動（11/19）等において、安全性が確認された原子力発電所の早期運転再開等、持続的な経済成長の実現に向けたエネルギー政策に関する要望を実施 ・ 要望事項の検討にあたっては、北陸三県から意見聴取 ○西日本経済協議会に所属する経済連合会と連名で、「エネルギー基本計画の見直しに向けた意見」を公表 ○懇談会等でのアピール <ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸選出自民党国会議員との懇談会（11/11）、中部・近畿経済産業局との懇談会（12/8）等でアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定かつ低廉な電力供給のため、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働に向けた要望を継続 ・ エネルギーセキュリティ確保、温室効果ガス削減に向けた諸施策、国民負担の抑制等に関する要望を継続
<p>(7) 国等に対する提言機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府要望活動（政府要望WGでの要望事項検討、政府与党等訪問） ・ 国等の活動フォロー ・ 行政当局・政党との懇談会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○北陸新幹線に関する要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会（8/2） ・ 北陸新幹線建設促進石川県民会議総会（8/9） ・ 富山県北陸新幹線対策連絡協議会合同決起大会（8/18） ・ 北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会北陸新幹線建設促進同盟会中央要請（8/20） ・ 単独政府要望（9/3） ・ 三経連要望活動（10/14） ・ 西経協要望活動（11/19） ・ 北陸三県での緊急要望（11/20） ○新型コロナウイルス感染症に関する三県知事への緊急要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常任理事会で書面審議（4/27） ・ 三県知事へ要望書提出（4/28） ・ プレスリリース（4/30） ○政府に対する北陸経済界からの要望書作成、要望の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 要望事項の検討にあたり、会員企業へアンケート調査を実施→15の会社、団体から25の要望事項を受領し、要望書に反映 ・ WGによる検討、要望書案取りまとめ（5/14、6/17） ・ 総合対策委員会（7/30）、常任理事会（8/5） ・ 政府、与党等に対する要望活動（9/3、4） 〔要望先〕自民党（鈴木総務会長（当時）、稲田幹事長代行）、公明党（井上副代表、太田北陸信越方面本部長、新妻中部方面本部副幹事長）、関係省庁、議員会館（北陸選出国会議員事務所） ○三経連としての要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 三経連経済懇談会・決議（9/15） ・ 要望活動（10/14） 〔要望先〕自民党（二階幹事長、下村政務調査会長）、公明党（井上副代表）、内閣府（加藤官房長官、坂本少子化対策地方創生大臣）、農林水産省（野上大臣）、経済産業省（佐藤大臣政務官）、国土交通省（赤羽大臣）与党整備新幹線建設推進PT（細田座長） ○西日本経済協議会としての要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員総会・決議（10/20） ・ 要望活動（11/19） 〔要望先〕自民党（二階幹事長、佐藤総務会長、下村政調会長）、首相官邸（加藤内閣官房長官）、内閣府（西村経済再生大臣、平井デジタル改革担当大臣）、財務省（伊藤副大臣）、経産省（江島副大臣）、国交省（鳩山政務官） ○前回（2019年8月）の政府要望事項に関する評価の実施 ○三県知事との懇談会にて各県の施策を情報提供（7/20） ○自民党「予算・税制等に関する政策懇談会」での要望（10/28） ○「北陸選出自民党国会議員との懇談会」での要望（11/11） ○中部・近畿経済産業局との懇談会（12/8） ○北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇話会（3/4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府与党、国土交通省などの重要箇所に対して、北陸経済界からの意見・要望を直接伝えることができる貴重な機会であり、今後も継続 ・ 会員企業へのアンケート調査は、幅広い業種、視点から意見を伺える貴重な機会であるため継続実施。また、今年度の要望項目に関する政府の各種施策への反映状況も踏まえ、来年度の要望項目を検討 ・ 北陸経済界の意見・要望を地方支分部局（各省庁の出先機関）や国会議員に対して直接伝えることができる有効な機会のため今後も継続

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(8) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域経済活性化に向けた連携協定」(協定先：日本経済団体連合会)の会員企業・大学へのPR、積極的な利用促進 ・第五次中期アクションプラン(2021～2025年度)の策定・公表(調査委託先：日本経済研究所、北陸経済研究所) ・公正取引委員会から講師を招いての講演会実施(公取が重視する監視対象[優越的地位の濫用]に関する具体的取締事例紹介等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○経団連会員企業へ紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸の企業・大学の技術等を連携協定に基づき経団連会員企業へ紹介(マッチングの申し入れ) ・現在までに46案件を申請⇒うち20件で面談実現 ・第3回経団連マッチングワークショップ開催(12/4 オンライン)※北海道経済連合会、四国経済連合会と共同開催(北陸の企業4社、1大学の取組みや技術を紹介) ○第五次中期アクションプランの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・各副会長および各委員会委員長へ事前説明(11/13～12/1) ・各委員会で審議(11/25～12/16) ・常任理事会で審議(12/23) ・「新春経済懇談会」で公表(1/25) ○講演会開催(2/18) <ul style="list-style-type: none"> 「公正取引委員会の最近の活動状況」(講師)中部事務所総務管理官 原山康彦氏 「業務提携に関する検討会報告書」のポイント(講師)競争政策研究センター事務局課長補佐 井堀治氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸の企業や大学にとって経団連会員企業(一部上場の大手企業)と連携できる意義は大きいと評価、引き続き会員企業、大学へのPRに注力 ・第五次中期アクションプランに基づき各委員会が2021年度事業計画を策定 ・コンプライアンス対応の重要性が増す中、会員企業に対し、公正取引委員会の様々な取組みに関して情報提供することは有益であること、および公正取引委員会と北経連、会員企業との関係を構築していくために継続実施

2020 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（先端技術推進委員会）

アクションプラン実施項目	2020 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
<p>(1) 域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成支援</p> <p>① ライフサイエンス産業の振興支援</p> <p>北陸ライフサイエンスクラスター事業の推進 [HIAC実施(北経連支援)]</p>	<p>ライフサイエンスクラスター事業等の活動支援 [北陸産業活性化センター(HIAC)実施、北経連支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北経連のネットワークの活用等による情報提供 ・講演会、セミナーの開催に対する協力 ・その他ライフサイエンス分野の振興支援 	<p>○「北陸産業活性化フォーラム～健康寿命の延伸・健康長寿社会の実現～」 [11/18 金沢市 参加者：92名(再掲オンライン参加48名)] (共催：HIAC、北経連 他 後援：中部経産局北陸支局)</p> <p>講師①：弘前大学 健康未来イノベーションセンター副拠点長・教授 村下公一 氏 「健康ビッグデータ活用による「寿命革命」の実現～ニューノーマル時代の未来型ヘルスケアサービスの追求～」</p> <p>講師②：金沢大学大学院 内分泌・代謝内科学分野教授 篁俊成 氏 「日本人とは？—糖尿病の病態から考える」</p> <p>講師③：金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科教授 山田正仁 氏 「認知症多発超高齢社会：認知症を知る、防ぐ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸ライフサイエンスクラスター推進協議会の開催支援 [3/11 金沢市 オンライン併催] (主催：HIAC、北経連は支援) 講演：ヒューマンメタロームテクノロジーズ株式会社 菅野最高顧問 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の北陸ライフサイエンスクラスター事業は2018年度で終了し、自主的な取り組みとしてのフォローも2020年度末で終了する。 ・HIACでは3県との連携維持を継続し、ヘルスケア産業に関わる各県事業の情報交換、国等の補助金事業への申請を実施する予定であり、北経連も引き続き支援をしていく。
<p>② 高機能新素材産業の振興支援</p>	<p>高機能新素材(CFRP, チタン等)の最新情報の収集・振興支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高強度チタン(開発支援終了、特許出願中)の本年度は用途開拓支援 ・異種物質の接合技術紹介及び技術導入支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度チタンを金沢大学医学部脳神経外科に紹介。12月に域内企業とオンライン会議開催し、頭蓋骨代替材料としての可能性検討。関連企業で厚さ数ミリの超高強度チタン板を試作中。 ・大阪大学接合科学研究所の異種物質分子レベル接合技術を域内企業に紹介し12月に面談を実施。CFRPと金属の接合について数社と連携協議中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素繊維複合材料をはじめとした高機能新素材に関する最新動向情報を継続して提供する。
<p>(2) 新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学金官連携支援</p> <p>① 関連団体等との連携による推進</p>	<p>関係各所と連携し、Society 5.0等に関係する各技術分野の最新情報の収集及び情報提供を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸情報通信協議会(総務省北陸総合通信局)との連携・協力 ・中部経済産業局・近畿経済産業局との連携・協力 ・会員大学との産学連携推進 ・医工融合研究会への支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会「5G時代における電波の安全性に関する説明会」 [12/11 富山市] (主催：北陸総合通信局 後援：北経連 他) ・講演会「産業技術総合研究所イノベーションシーズ講演会」 [11/6 金沢市] (来場とオンライン配信併用) (主催：産業技術総合研究所中部センター・HIAC 後援：北経連) ・金沢大学「ビヨンド・コロナ・フォーラム(BFC)」への協力 (主催：金沢大学 後援：北経連 他) - 8/24 本イベントの有識者よりの提言で久和会長の動画投稿 - 9月「勝手にイノベーション」で学生からのウェアブルメガネの活用 の提案等を域内企業へ取次 - 2/12 七尾市で成果報告会が開催され、優秀作品表彰式において久和会 長ビデオメッセージ投稿、北陸経済連合会会長賞授与。 ・イノベーションプログラム2021春「IoT/AI、5Gで変わるこれからの社会」 (主催：金沢大学先端科学・イノベーション推進機構協力会) 北経連からも会員へ案内実施 ・「医工融合技術を生かした医療機器の創製に関する研究会」への協力 (主催：金沢工業大学 共催：北経連 他) 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、メンバーを集めた研 究会は開催せず、講演を収録したDVDを配布する形態で変更実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT、5G等の情報通信技術について北陸情報通信協議会(北陸総合通信局)等と協調して、最新情報の提供を継続していく。 ・北陸三県の産業活性化を目的にした大学等のプロジェクト等を支援していく。 ・医工連携に関わる情報共有の機会となるため、今後も支援を継続する。

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
②技術アドバイス・コーディネーター活動 [HIAC実施(北経連支援)]	HIAC と連携し、各種交流の場を通して得られた大学の研究シーズや企業の新技術などを関連企業等へ紹介 ・北陸の企業間、企業・大学間でのマッチングの推進 ・日本経済団体連合会（経団連）との連携協定を活かし経団連企業とのマッチングの推進	○マッチング支援（HIACとの連携事業） 本年度10件の個別マッチング案件について、紹介・面談を実施した。 ・会員企業→会員等：6件（面談実施5件） ・会員大学→会員等：3件（面談実施1件） ・企業等→会員企業：1件（面談実施1件） ○経団連との連携協定を活用したマッチング支援 ・2019年度に申請した5件についてフォローを実施し、3件は先方と面談（オンライン会議）を実施した。 ・2020年度に申請した13件については、5件は先方と面談実施（オンライン会議及び企業訪問） ○第3回経団連マッチングワークショップ [12/4 オンライン開催 北経連、四経連、道経連から各5件発表] 北経連会員へ募集をかけ、下記の企業4社+大学1校が発表。 -キタムラ機械「顔認証機能付きマシニングセンタ NC 操作盤」 -小林製作所「製造現場の課題解決のカイゼンカメラ Sopak-C」 -金沢大学「融合学域におけるアントレプレナー・インターシップの開始」 -秀峰「フィルムレス、塗装レス 独自開発の画期的曲面印刷技術」 -日華化学「環境、健康、衛生、デジタル社会をリードする5つのソリューション」 上記の中で2社は経団連企業との面談を実施。	・北経連のネットワークを活用し、大学の研究シーズや企業のニーズ情報等を、適宜、HIAC と連携し会員を中心としたマッチングを推進する。 ・経団連との「連携協定」を活かし、北陸の企業、大学の技術などを経団連会員企業（大手企業）に提案していく。 ・初めてのオンライン開催だったが、視聴者数をより増やすため、今回の経済団体別の発表ではなく分野別に発表方式や録画による事後視聴などを経団連へ提案していく。
③北陸産学技術交流会（会員企業、大学等の見学会）	会員大学の産学連携部門や研究者と企業の開発部門の実務者が参加する大学・企業・公設試験場の見学会を積極的に開催	○石川県工業試験場の施設見学会 [12/18 参加者：19名] デジタルものづくり普及拠点の見学会として、2018年度に導入した最新の3Dスキャナーやレーザー積層装置等を設置した3Dものづくりラボ、およびAI・IoT技術支援工房や次世代センターを見学。	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、見学会を予定していた企業・大学とは調整中断中。 ・見学会開催が難しい状況が当面見込まれるため、北陸産学技術交流会の目的に沿った実施内容を検討する。
④北陸地域ものづくり展示会への支援	北陸地域の展示会に出展し、北経連の活動紹介と下記を実施 ・「北陸のシェアトップ150」を配布し北陸のものづくり企業PR ・会員大学の研究内容紹介を支援	○「北陸技術交流テクノフェア2020 on the Web」 [11/1～12/25 実開催からオンライン開催に変更] （主催：技術交流テクノフェア実行委員会）北経連は実行委員 HIAC と共同でオンライン出展し、北経連の取組みや「北陸のシェアトップ150」、BioSeeds社のDEPSOR（小型電気化学測定器）を紹介 ・「機械工業見本市(MEX 金沢2020)」【開催中止】 （主催：一般社団法人 石川県鉄工機電協会） 出展申込みしたが、5月開催から10月に延期となり、最終的に開催中止となった。 ○「Matching HUB Kanazawa 2020」[11/5-6 金沢市] （主催：北陸先端科学技術大学院大学 後援：北経連 他） 2日目のパネル展示に出展し、北経連の産業振興の取組み紹介、「北陸のシェアトップ150」を配布	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により北陸域内の展示会が開催中止やオンライン開催に変更となったが、今後も北陸地域の展示会等に出展し、北陸のものづくり企業のPR、会員大学の研究内容紹介等を継続する。

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
<p>(3) 新技術等の活用による産業振興支援 ①講演会、セミナー等による事例紹介、啓発</p>	<p>Society 5.0等の最新技術に精通した講師による講演会、セミナー等を開催し、時宜を得た情報提供・事例紹介を実施 (例: IoT、5G、ビッグデータ、AI、ロボテックス、自動運転、MaaS、水素技術等)</p>	<p>○福井会員懇談会「デジタルトランスフォーメーション」 [11/16 福井市 参加者: 100名(再掲オンライン参加: 60名)] 講師①: キューピー(株)生産本部テクニカルフェロー 荻野武氏 「食品業界におけるAI・IoTイノベーションによる労働力不足解消」 講師②: 福井工業大学 AI&IoTセンター長 芥子育雄氏 「福井工業大学AI&IoTセンターの取組みとデジタル変革(DX)」</p> <p>○先端技術勉強会 [12/11 金沢市 参加者: 先端委員他19名(再掲オンライン参加: 11名)] 講師: (株)NTT データ北陸社長 池田佳子氏 「Digital時代における企業変革」</p> <p>○富山会員懇談会 [2/1 富山市 参加者: 128名(再掲オンライン参加: 110名)] 講師: 駐日フィンランド大使館 一等書記官 ニーナ・ヴァイサネン氏 「幸福度世界一の国フィンランド～労働生産性が高い理由～」</p> <p>○先端技術講演会(オンライン開催) [3/30 予定 金沢市 参加者: 73名] 講師: 東京大学名誉教授・情報セキュリティ大学院大学名誉教授 田中英彦氏 「DXに向けて～技術とセキュリティ～」</p>	<p>・会員懇談会の参加者アンケートで「(大変)参考になった」と回答が、福井会員懇談会では7割、富山会員懇談会では9割であり、概ね好評であった。</p> <p>・Society5.0の実現に向けてIoT、5G、ビッグデータ、AI(人工知能)の分野においては技術革新が急速に進展しており、関連産業を含めて引き続き最新情報を提供していく。</p>
<p>②大学・企業の視察会、最新技術の紹介</p>	<p>北陸内外の大学の研究施設や企業の先端施設の視察会等を実施し、最新技術を紹介</p>	<p>○富山県立大学見学会(総合対策委員会との共催) [9/25 久和会長、澁谷委員長以下34名参加] 研究紹介(3件)の発表と産学連携の取組みの紹介後、2020年3月に竣工した中央棟と実験室を見学した。</p>	<p>・北陸産学連携懇談会と同日開催される大学見学会は、企業経営層が大学の活動や施設を知る機会となっており、来年も実施する。</p>
<p>③ベンチャー振興支援</p>	<p>・北陸内外のベンチャー動向に関する情報収集・提供 ・会員企業とベンチャー企業等との交流促進 ・経団連との連携協定を活用、北陸の有望なベンチャー企業等を経団連会員企業へ紹介</p>	<p>・DBJコネクト「北陸Startup Program」 [7月～2021.3月] (主催: 日本政策投資銀行 後援: 北経連 他)</p> <p>・「HIT2020(Hokuriku Innovation Trial2020)ハイブリッド」 [11/21 オンライン開催] (主催: (一社)テレコムサービス協会他 後援: 北経連他)</p> <p>・「第6回 福井ベンチャーピッチ」[12/3 オンライン開催] (主催: ふくい産業支援センター) 北経連から会員へ案内実施</p> <p>・「J-Startup KANSAI」[2/16 オンライン開催] (近畿経済産業局主催) 本イベントで発表したスタートアップ企業の数社を北陸企業に紹介</p> <p>・金沢大学主催「ビヨンドコロナフォーラム」に関連した学生のスタートアップ(4件)に対し企業への紹介等の活動支援中。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大によりベンチャー企業等の交流会は断念。</p> <p>・各県ベンチャー支援機関等との連携強化、会員企業のスタートアッププログラムを支援し、会員との交流を深めるよう活動を企画していく。 [前回の福井ベンチャーピッチ登壇企業を経団連企業に紹介(前述(2)(2)を含む)]</p>
<p>(4) 企業の人材育成支援 ①講演会、セミナー等による事例紹介、啓発</p>	<p>関係機関との共催・後援、大学のリカレント教育などを活用した会員企業の業務能力向上を支援 (テーマ: IoT、データサイエンス、AI、サイバーセキュリティ等) ・デジタル人材育成の経営者向けセミナーの開催 ・企業向けデジタル人材育成教育等についての枠組み検討 ・地元大学等のリカレント教育等の情報提供</p>	<p>○デジタル人材育成のリカレント教育アンケート調査 [実施時期: 7/15～7/31 回答数: 64 アンケート内容(下記2件)] A. 「実戦・データサイエンス概論 実務者向けコース」(計画中の北経連・HIAC共催のオンライン講座) B. 厚生労働省「教育訓練プログラム開発事業」アンケート(データサイエンス教育の情報交換を実施した大阪大学からの依頼) 上記Aについては、8月に講師依頼予定の富山大学 中川教授に速報でフィードバック実施。10月下旬に取り纏めたアンケート結果をHPで公表済。</p> <p>○デジタル人材育成セミナー「企業のデジタル化を推進するデータサイエンス」の開催 [9/7 金沢市 参加者: 90名(再掲オンライン参加40名)] 講師①: (株)D4c アカデミー取締役社長兼学長 和田陽一郎氏 「DXとデータサイエンス～人材戦略の観点から～」 講師②: 富山大学副学長データサイエンス推進センター長 中川大氏 「富山大学におけるデータサイエンス教育とリカレント教育」 講師③: 金沢工業大学 工学部情報工学科教授 山本 知仁氏 「Society5.0時代をリードする人材育成プログラム」 講師④: 大阪大学特任准教授 朝倉暢彦氏、(株)プロアシト社長 生駒京子氏 「大阪大学 数理・データ科学教育センターによる社会人向けデータサイエンス教育」</p>	<p>・Society5.0の実現に必要なスキルや会員のニーズに応え、人材育成の講演会、セミナー、講習会等を大学や関連団体と連携して実施していく。</p>

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>○「実戦・データサイエンス概論実務者向けコース」の講座開催 [10/28～12/2 毎週水曜日(講義・演習の全6回) オンライン講座] (主催:北経連・HIAC 後援:富山大学) 受講者数:54名 講師:富山大学 中川大先生へ依頼 データサイエンスで「何ができるのか」、「どのようなツールがあるのか」など、学習したことが実務者に直接役立つ講座となるよう企画した。 受講者アンケート結果を取り纏めて、講師・受講者へフィードバック実施した。</p> <p>・「サイバーセキュリティフォーラム&交流会 in 福井」[8/3 福井市] (主催:関西サイバーセキュリティ・ネットワーク事務局 後援:北経連 他)</p> <p>・リカレント教育「KITリカレント教育プログラム」[8/1～9/22 金沢市] (主催:金沢工業大学)北経連から会員へ案内実施</p> <p>・「機械学習・データ科学 金沢ミニキャンプ」[10/30 金沢市] (主催:大阪大学実行委員会事務局)北経連から会員へ案内実施</p> <p>・講習会「ITものづくりブリッジ人材」育成カリキュラム [10/10～12/12 毎週土曜 全10回、名古屋市] (主催:中部経済産業局)北経連から会員へ案内実施</p> <p>・講演会「ITものづくりブリッジ人材育成セミナー～北陸・東海ものづくり企業のDX推進～」[12/10 オンライン開催] (主催:中部経済産業局)北経連から会員へ案内実施</p> <p>・講習会「基礎から学ぶIoT導入セミナーin富山」 [12/8 富山市] (主催:北陸総合通信局 後援:北経連、HIAC 他)</p> <p>○「ニューノーマル時代の『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2021」(オンライン開催 金沢市) [2/4 Practice Day 参加者:23名、 2/5 Seminar Day 参加者:80名] (主催:北陸総合通信局、北経連 他)</p> <p>・リカレント教育「KITリカレント教育プログラム」春季集中講義募集 [2/1～3/1 金沢市] (主催:金沢工業大学)北経連から会員へ案内実施</p>	<p>・受講者アンケート結果は好評価と考えられ、その結果を基に講師との意見交換を実施し、次年度の講座開催に向けて検討・調整を開始した。</p> <p>・関係機関と連携し、企業の人材育成に資するセミナー・リカレント教育の情報発信を継続していく。</p>
<p>(5) 企業誘致等 域外企業の本社機能移転、事業所新設の促進支援、研究機関等政府関係機関の誘致支援</p>	<p>首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境(本社機能を含む)のPRを実施</p>	<p>各県の企業誘致担当・北陸電力・北経連で構成する「北陸国際投資交流促進会議(北投促)」の活動</p> <p>・メッセナゴヤ(名古屋市)【出展断念】 [11/4～7 実開催中止からオンライン開催(11/16～12/11)に変更]</p> <p>・日本ものづくりワールド(東京 幕張)【出展辞退】 [2/3-5 予定 首都圏の新型コロナウイルス感染症拡大により出展辞退]</p> <p>○事業計画を見直し、オンライン展示会にも出展できるようにPR動画を発注し3月に製作完了。PR動画はHP掲載し今後の展示会等で活用予定。</p> <p>○北投促勉強会の開催(オンライン併用) [2/8 金沢市 参加者:78名(再掲オンライン参加:53名)] 講師①:(一財)地域活性化センター 人口・地域経済研究室長 松原 裕樹 氏 講師②:(株)野村総合研究所 主席研究員 2030年研究室長 齊藤 義明 氏 講師③:AGC(株)執行役員事業開拓部長マルチマテリアル事業本部長 高田 聡 氏</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により計画どおり出展できなかった。オンライン展示会にも対応できるよう準備を進め、首都圏等の大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境のPRを継続していく。</p> <p>・今回が初めての勉強会開催であったが、参加者から「(大変)参考になった」が7割超の評価であり、次年度の展示会出展可否と合わせて開催を検討していく。</p>
<p>(6) 6次産業化に資する農林水産業との連携</p>	<p>スマート農業に取り組む企業や大学研究者、行政と連携し、農業生産・流通分野における先進的事例等の情報収集・提供</p>	<p>・新聞記事に掲載された鮮度保持フィルムをルビーロマン研究会に紹介。その後、会員企業の鮮度保持剤の塗布生地も実験の対象に加える。</p>	<p>・会員のニーズを把握し、今後の取り組みを検討する。</p>

2020 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（社会基盤整備委員会）

アクションプラン実施項目	2020 年度事業計画	2020 年度実施状況	評価・方向性
北陸新幹線の敦賀までの早期開業	<p>①北陸三県等と連携した政府・与党等に対する、2022 年度末までの確実な開業に向けた要望活動</p> <p>②敦賀開業後の関西・中京圏へのアクセス維持向上に向けた要望活動</p>	<p>○政府・与党等に対する要望活動、大会・総会等出席実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/2 福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会（福井市） ・ 8/9 北陸新幹線建設促進石川県民会議総会（金沢市） ・ 8/18 富山県北陸新幹線対策連絡協議会合同決起大会（富山市） ・ 8/20 北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会 北陸新幹線建設促進同盟会中央要請（東京） ・ 9/3 単独政府要望（東京） ・ 10/14 三経連要望活動（東京） ・ 11/19 西経協要望活動（東京） ・ 11/20 北陸三県での緊急要望（東京） ・ 【今年度中止】北陸新幹線建設促進同盟会中央要請（東京） <p>○懇談会等での意見表明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談会等のあらゆる機会を捉えて、金沢・敦賀間の 2022 年度末までの確実な開業実現、敦賀開業時期にかかわらず、環境アセスメントを予定通り 2022 年度内に完了し、2023 年度からの切れ目のない着工による一日も早い大阪までの全線開業についてアピール。 	<p>○2020/12/16 国交大臣名の文書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢・敦賀間について 2023 年度末の完成・開業に向け最大限努力する。 ・ 2,658 億円の追加費用について地方負担を最小化するように配慮しつつ、安定的な財源見通しを立てる。 ・ 敦賀・新大阪間について、与党 PT の「敦賀・新大阪間を 2023 年度当初に着工するものとする」との決議内容を重く受け止め、関係機関と調整して着工 5 条件の早期解決を図る。 <p>○要望活動継続実施（北陸三県、関経連との連携含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敦賀・金沢間の 2023 年度末までの確実な開業 ・ 敦賀開業後の関西・中京圏へのアクセス維持向上 ・ 敦賀・新大阪間の 2023 年度当初の着工、2030 年頃までの一日も早い全線整備
<p>【参考】北陸新幹線の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/24 第 7 回北陸新幹線整備 PT コロナの影響で一部工事が中止していたが、開業に遅れは生じないと説明。 ・ 9/24 第 8 回北陸新幹線整備 PT 入札不調などにより工期が逼迫していると報告。 2021 年度予算の概算要求で北陸新幹線金沢・敦賀間を含む整備新幹線の建設費として 2020 年度予算 804 億円に加え、要求額を示さない「事項要求」とする方針を固めた。 ・ 10/9 三県による緊急要望 北陸三県の知事や地元国会議員が参加し、細田 PT 座長等と面談。金沢・敦賀間における、工事の入札不調や加賀トンネルでのひび割れにより、2022 年度末の開業について「厳しい情勢にある」との発言あり。 ・ 11/11 第 30 回与党整備新幹線建設推進 PT 国交省は工事の遅延により 2022 年度末の敦賀開業が 1 年半遅れるとの見通しを報告。また事業費が 2880 億円膨らむ試算も明らかとした。検証委員会を設置し 12 月上旬に工期短縮と建設費縮減の方策を取りまとめる考えを示した。また来年夏ごろに一連の問題の原因究明、再発防止策について最終報告する。 ・ 12/16 第 34 回与党整備新幹線建設推進 PT 検証委員会の検討の結果、建設費が 2,658 億円増加、敦賀開業が 1 年程度遅れの 2023 年度末となることが報告された。 国交大臣名の文書にて、工期、事業費の適時・適切な管理に加え、沿線地域への影響の軽減について示された。また敦賀・新大阪間の 2023 年度当初の着工、着工 5 条件の早期解決についても示された。 ・ 1/22 第 1 回 金沢・敦賀間工程・事業費管理連絡会議 金沢・敦賀間の工事の進捗や事業費の執行状況などを沿線地方自治体と定期的に共有し、管理をしていくことが目的。 開催頻度は年 3 回から 4 回程度。この会議の下に幹事会を設置し、幹事会は県の部長クラス、機構の部長クラス、鉄道局は課長クラスが中心となり報告の実効性を確保する。 今回、加賀トンネルにて新たなひび割れが判明したと報告され、今後工程への影響調査、対策を講じる。 ・ 2/17 第 1 回 北陸新幹線 敦賀・新大阪間整備委員会 与党 PT の下に設置され、高木毅議員が委員長就任。「環境アセスの手続き」「京都、大阪市内の施工」、「財源、在来線の取扱い」に分けて課題を整理。 ・ 2/19 金沢・敦賀間工程・事業費管理連絡会議幹事会 鉄道・運輸機構より、加賀トンネル以外のトンネルでは盤ぶくれは確認されていないことや、全体工程に影響を与える工事である R4 高架橋工事が、1.5 ヶ月先行しているが駅全体の工程が縮まっていくという認識はしていない、との回答があった。 			
フル規格での大阪までの延伸	<p>①大阪までの 2030 年ごろまでの一日も早い開業に向け、北陸三県・関西経済連合会等と連携した政府・与党等に対する要望活動実施。</p> <p>②関西地域と連携した現地での北陸新幹線 PR 活動</p>	<p>○関西経済界との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関経連事務局との定期的な情報交換。 ・ 10/30 関経連主催「リニア・北陸新幹線専門委員会」オンライン講演会 光野委員長参加 ・ 【延期】12/1 関西北陸交流会（JR 西日本主催） ・ 2/4 関西財界セミナー 久和会長 WEB 参加 「分散型国土の実現」「ブロック同士の対流を促すための広域交通インフラ整備の必要性」「分散型国土において北陸圏が果たす役割」について発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関西財界セミナー、関西北陸交流会に参加する等、引き続き関西経済界と連携し、京都・大阪の機運醸成を図る。

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	2020年度実施状況	評価・方向性
ゴールデンループの周知	①インバウンド需要のみならず、大規模災害時の国土代替補完機能としてのゴールデンループをアピール。	○ゴールデンループ ・広域観光ルートとしてだけでなく、東海道新幹線の代替機能としての役割を、各要請や懇談会等にてアピール実施。 ・名刺の裏面への掲載、会議等でのPRチラシ配布の継続	・懇談会等での発言、名刺の裏面への掲載やチラシの配布等にてPRを継続。(多核連携型国家を構築するためにも重要)
太平洋側での巨大災害発生時に実質的な代替機能を持つ物流ネットワークの整備	①「北陸地域国際物流戦略チーム広域バックアップ専門部会」への参画 ②スマートロジスティクス、最新のインフラ建設技術に関する情報収集、勉強会等の実施 ③防災・減災への取組み ・太平洋側代替機能のアピール ・西日本経済協議会「防災連絡会」での議論・意見交換 ・「国土強靱化税制」実現など、広域的な取り組みの実施	○「南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練」への参加(2021/2/5 オンライン開催) 令和2年度 幹事会の開催(2021/3/12 オンライン開催) ・東南アジアダイレクト航路創設に向けた取り組み 等 ○9/3「政府に対する北陸経済界からの要望書」を、政府・与党へ提出 ・高速道路料金の大幅な割引制度の導入(コロナ禍を踏まえた要望) ・物流分野におけるロボット、パワースーツ、IT・AI・5Gを活用したシステム等の導入に係る税財政的支援 等 ・太平洋側に対する物流代替機能の強化 ・物流分野における労働力不足等に対応するための新技術等の導入促進(スマートロジスティクスの推進) ・防災・減災対策に資する支援(税制・環境整備等) など ○西経協 防災連絡会(2020/12/16 オンライン開催) ・講話「中部地域の防災・減災の活動状況」 名古屋大学減災連携研究センター長 福和伸夫 教授 ○「『国土強靱化税制』の整備・創設に向けての要望」を、8つの経済連合会で要望 ・11/19 自民党「『国土強靱化税制』の整備・創設を支援する議員懇話会」において要望活動を実施) ・次年度要望に向けた企業ニーズ調査のためのアンケート実施(回答期間3/24~4/15 予定)	・「専門部会」に引き続き参画する。 ・今後、物流スマート化に関する勉強会、セミナー等の開催を検討する。 ・北陸新幹線、港湾整備、高規格道路等の要望にあたり、災害時における太平洋側の代替機能のアピールしていく。 ・中部地方の先進的な取組み(行政・企業間の連携が進んでいる)が紹介された。 ・引き続き他経済連合会と協力し、民間企業の防災に関する設備投資を促すための税制改正に関して活動していく。
高規格幹線道路の4車線化, ミッシングリンクの解消	政府への要望の実施、国土交通省との懇談会等における要望 ①高規格幹線道路の整備促進・完全4車線化の実現 ②事故・渋滞削減に資する地域高規格道路の整備促進	○東海北陸自動車道建設促進同盟会 総会(書面開催)、要望活動(11/6 関係知事のみで実施) ○中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会 要望活動(11/27 福井県関係者で実施、2/5 オンラインで要望) ○社会資本整備審議会道路分科会 北陸地方小委員会(10/9 開催) ○9/3「政府に対する北陸経済界からの要望書」を、政府・与党へ提出 ・東海北陸自動車道・舞鶴若狭自動車道の早期全線4車線化 ・中部縦貫自動車道(大野IC-油坂出入口)・能越自動車道(田鶴浜-七尾IC、のと里山空港IC-輪島IC)の早期全線開通 ＜参考＞高規格幹線道路 2020年度の主な動き ◇東海北陸自動車道 11/7 城端SA-福光IC(2.3km)の、4車線化工事が完成。 ◇中部縦貫自動車道 4/17 大野油坂道路(大野IC-和泉IC)が、令和4年度に開通する見通しとなった。	・引き続き、要望活動を実施する。 ＜対象となる高規格幹線道路＞ 東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道、能越自動車道、中部縦貫自動車道

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	2020年度実施状況	評価・方向性
北極海航路等利用拡大に対応する日本海港湾拠点の国際化	<p>①整備促進に向けた北陸三県・他経済団体等との連携、政府への要望活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際物流環境の変化やクルーズ船誘致に対応する日本海側拠点港の整備促進 等 <p>②東海地区での北陸港湾ポートセールスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸港湾の利用拡大を荷主企業等へPR <p>③「北陸港湾ビジョン」検討委員会への参画</p>	<p>○9/3「政府に対する北陸経済界からの要望書」を、政府・与党へ提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本海側拠点港の整備促進 <p>○10/13「北陸三県港湾勉強会」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伏木富山・金沢・敦賀各港の現状報告・意見交換 <p>○「代替輸送訓練」がオンライン開催となったため、三県と協議して、ポートセールス(情報交換会)開催は見送り。</p> <p>○北陸港湾ビジョン検討委員会(6/25第1回、9/1第2回、12/18第3回、3/10第4回(最終)) →2021年3月中に公表予定</p> <p>趣旨：概ね10年～15年後の北陸地方の港湾・空港に関する将来の姿を整理し、多様な主体間の具体的な取り組みを示す。</p> <p>ビジョン骨子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航路多元化の検討(ダイレクト航路創設、SLBの活用可能性) ・日本海側港湾との連携による集貨の検討(集貨航路の構築、鉄道・道路との連携)など 	<p>・引き続き、要望活動を実施する。</p> <p>・港湾分野で、三県が連携する場合は貴重であり、勉強会での有意義な意見・アイデアがあれば、活動に取り入れ、展開していきたい。</p> <p>・北陸港湾ビジョンの基本的な考え方「広域交流拠点の形成と日本海・太平洋の2面活用型の国土実現」は、当会の目指す方向性と合致するものである。</p> <p>・今後、本ビジョンも踏まえて、港湾整備に向けた活動を進めていきたい。</p>
北陸地域内2次交通ネットワークの利便性の向上	<p>①整備促進に向けた北陸三県・他経済団体等との連携(政府への要望活動の実施、利便性向上に向けたバス・私鉄事業者との連携等)</p> <p>②各県並行在来線利用促進協議会等への参加</p>	<p>○要望活動実施</p> <p>9/3「政府に対する北陸経済界からの要望書」を、政府・与党へ提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通系ICカードシステム整備に対する支援の拡充、観光客増加に資する二次交通の充実に向けた支援 ・並行在来線の存続と利便性向上のため、三セクへの国の支援、JRからの協力・支援の実現など、新たな仕組みの構築による地元負担の最大限の軽減 <p>○協議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/4第15回あいの風とやま鉄道利用促進協議会(書面開催) ・7/20第1回あいの風とやま鉄道新経営計画検討ワーキンググループ(欠席) ・11/12第2回あいの風とやま鉄道新経営計画検討ワーキンググループ ・12/11あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会 ・12/16あいの風とやま鉄道利用促進協議会 ・1/27福井県並行在来線対策協議会幹事会 ・2/4福井県並行在来線対策協議会 書面決議 	<p>・要望活動の継続実施</p> <p>・引き続き各県の協議会参加を行う</p>
北陸地域内空港の活性化(LCCの誘致、プライベートジェットの受け入れ推進等)	<p>①活性化に向けた行政、航空会社等との連携によるPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山、能登、小松空港の便数維持、乗り継ぎ割引の拡大 ・政府への要望活動の実施 ・国内地方路線網の維持・拡充に向けた支援 ・新規路線の開設および国際航空貨物便の拡充に向けた支援 <p>②羽田空港でのイベント等を通じ北陸地域の空港と羽田間の利用促進PR</p>	<p>○9/3「政府に対する北陸経済界からの要望書」を、政府・与党へ提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機着陸料、旅客施設使用料、国際観光旅客税の減免(コロナ禍を踏まえた要望) ・国内地方路線網の維持・拡充に向けた支援 <p>○(羽田空港でのイベントは、今年度は開催見送り)</p>	<p>・コロナ後の需要回復を見据えて路線網維持を訴求していく</p>

2020 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（国際交流推進委員会・北陸 AJEC）

アクションプラン実施項目	2020 年度（令和 2 年度）事業計画	実施状況	評 価・方向性																																																				
<p>(1) 北陸地域・企業の国際化のあり方・方向性の提言</p> <p>① 経済活性化に資する企業の国際化に関する調査研究</p> <p>② 大学・研究機関との連携強化</p>	<p>1. 調査研究 2020 年度は、外国人材の活用など過去 4 年間の研究成果を踏まえ、今後の国際経営環境の変化と北陸企業の国際化のあり方について調査研究する。</p> <p>(1) 調査研究名（仮称） 今後の国際経営環境の変化を見据えた北陸企業の国際化のあり方・方向性</p> <p>(2) 調査内容 過去 4 年間の研究成果に加え、新たに ① 想定される今後の企業経営を巡る国際環境の変化 ② 北陸地域内外の国際企業の先進的な取り組み事例を調査し、これらを踏まえて北陸企業の今後の国際化のあり方について北陸企業への提言をまとめる</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center;">(変化)</p> <p>(必要な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域経済連携の進展 ・ 国際競争の激化 ・ アジアの更なる経済発展 ・ AI、5G の普及 等 </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 果敢な海外市場開拓 ・ 高度外国人材活用推進 ・ 生産性向上 ・ IT 技術活用推進 ・ 地域力の向上 等 </div> </div> <p>(3) 調査方法・体制 企業経営を巡る国際環境の変化に精通し、企業・地域調査に習熟している(株)日本経済研究所に調査委託する。</p>	<p>■ 報告書「先進事例にみる北陸企業の国際化のあり方」の発行（2021 年 3 月）</p> <p>○ 構 成</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 調査概要</td> <td style="width: 50%;">7. ヒアリング企業一覧</td> </tr> <tr> <td>2. 先行研究のまとめ</td> <td>8. 提言</td> </tr> <tr> <td>3. 今後の国際経営環境の変化・トレンド</td> <td>8-(1) 提言 デジタル技術の活用</td> </tr> <tr> <td>4. 先行研究等を踏まえた北陸の持続的な成長のあり方</td> <td>8-(2) 提言 高度外国人材の活用</td> </tr> <tr> <td>5. ヒアリング企業の考え方</td> <td>8-(3) 提言 果敢なグローバル化</td> </tr> <tr> <td>6. ヒアリング企業の選定基準</td> <td>9. ヒアリング企業の概要</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10. 参考資料 先行研究の整理</td> </tr> </table> <p>○ ヒアリング企業一覧（ヒアリング実施期間：8/17～9/17）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">テーマ</th> <th style="width: 20%;">企業名</th> <th style="width: 20%;">所在地</th> <th style="width: 45%;">業種・製品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">デジタル技術の活用</td> <td>(株) 小林製作所</td> <td>石川県白山市</td> <td>精密板金・システム開発販売（北経連会員）</td> </tr> <tr> <td>(株) 鈴木栄光堂</td> <td>岐阜県大垣市</td> <td>菓子製造業</td> </tr> <tr> <td>丹羽鑄造(株)</td> <td>岐阜県関市</td> <td>油圧、農機具、自動車部品</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高度外国人材の活用</td> <td>(株) 由紀精密</td> <td>神奈川県茅ヶ崎市</td> <td>航空宇宙、医療機器関連部品</td> </tr> <tr> <td>生田産機工業(株)</td> <td>京都府京都市</td> <td>金属生産設備、産業用自動化機器の設計・製作</td> </tr> <tr> <td>(株) 中農製作所</td> <td>大阪府東大阪市</td> <td>精密機械加工・組立</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">果敢なグローバル化</td> <td>(株) 日吉</td> <td>滋賀県近江八幡市</td> <td>分析・測定、環境保全サービス</td> </tr> <tr> <td>(資) 加藤吉平商店</td> <td>福井県鯖江市</td> <td>清酒製造業（北陸 AJEC 会員）</td> </tr> <tr> <td>(株) 最上インクス</td> <td>京都府京都市</td> <td>精密薄板加工、精密金型</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(株) 能作</td> <td>富山県高岡市</td> <td>鋳鉄鋳物製造業</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 調査研究に関するセミナー「DXの推進と北陸企業の国際化のあり方」の開催</p> <p>○ 日時：2021 年 3 月 16 日（火）13:30～16:30（金沢ニューグランドホテル）</p> <p>○ 参加者：91 名（会場 24 名・オンライン 67 名）</p> <p>○ 内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体テーマ：「DXの推進と北陸企業の国際化のあり方～北陸の持続的成長を目指して～」 ・ プログラム <p style="margin-left: 20px;">13:35～14:35 第 1 部 基調講演</p> <p style="margin-left: 40px;">演題：「DXの本質と日本企業が目指すべきグローバル化」</p> <p style="margin-left: 40px;">講師：(株)NTTデータ経営研究所 代表取締役社長 柳 圭一郎 氏</p> <p style="margin-left: 20px;">14:45～16:30 第 2 部 調査報告、パネルディスカッション</p> <p style="margin-left: 40px;">① 14:45～15:00 調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査報告「先進事例にみる北陸企業の国際化のあり方」 (株)日本経済研究所 <p style="margin-left: 80px;">報告者 (株)日本経済研究所 調査企画部長 坂野 航 氏</p> <p style="margin-left: 40px;">② 15:00～16:30 パネルディスカッション</p>	1. 調査概要	7. ヒアリング企業一覧	2. 先行研究のまとめ	8. 提言	3. 今後の国際経営環境の変化・トレンド	8-(1) 提言 デジタル技術の活用	4. 先行研究等を踏まえた北陸の持続的な成長のあり方	8-(2) 提言 高度外国人材の活用	5. ヒアリング企業の考え方	8-(3) 提言 果敢なグローバル化	6. ヒアリング企業の選定基準	9. ヒアリング企業の概要		10. 参考資料 先行研究の整理	テーマ	企業名	所在地	業種・製品	デジタル技術の活用	(株) 小林製作所	石川県白山市	精密板金・システム開発販売（北経連会員）	(株) 鈴木栄光堂	岐阜県大垣市	菓子製造業	丹羽鑄造(株)	岐阜県関市	油圧、農機具、自動車部品	高度外国人材の活用	(株) 由紀精密	神奈川県茅ヶ崎市	航空宇宙、医療機器関連部品	生田産機工業(株)	京都府京都市	金属生産設備、産業用自動化機器の設計・製作	(株) 中農製作所	大阪府東大阪市	精密機械加工・組立	果敢なグローバル化	(株) 日吉	滋賀県近江八幡市	分析・測定、環境保全サービス	(資) 加藤吉平商店	福井県鯖江市	清酒製造業（北陸 AJEC 会員）	(株) 最上インクス	京都府京都市	精密薄板加工、精密金型		(株) 能作	富山県高岡市	鋳鉄鋳物製造業	<p>・ デジタル技術の活用、高度外国人材の活用、果敢なグローバル化について先進的な取り組みを行っている企業事例を調査し、北陸企業の国際化促進に向けた提言をとりまとめた。</p> <p>・ 調査研究に関するセミナーを開催し、調査結果を普及啓発した。</p>
1. 調査概要	7. ヒアリング企業一覧																																																						
2. 先行研究のまとめ	8. 提言																																																						
3. 今後の国際経営環境の変化・トレンド	8-(1) 提言 デジタル技術の活用																																																						
4. 先行研究等を踏まえた北陸の持続的な成長のあり方	8-(2) 提言 高度外国人材の活用																																																						
5. ヒアリング企業の考え方	8-(3) 提言 果敢なグローバル化																																																						
6. ヒアリング企業の選定基準	9. ヒアリング企業の概要																																																						
	10. 参考資料 先行研究の整理																																																						
テーマ	企業名	所在地	業種・製品																																																				
デジタル技術の活用	(株) 小林製作所	石川県白山市	精密板金・システム開発販売（北経連会員）																																																				
	(株) 鈴木栄光堂	岐阜県大垣市	菓子製造業																																																				
	丹羽鑄造(株)	岐阜県関市	油圧、農機具、自動車部品																																																				
高度外国人材の活用	(株) 由紀精密	神奈川県茅ヶ崎市	航空宇宙、医療機器関連部品																																																				
	生田産機工業(株)	京都府京都市	金属生産設備、産業用自動化機器の設計・製作																																																				
	(株) 中農製作所	大阪府東大阪市	精密機械加工・組立																																																				
果敢なグローバル化	(株) 日吉	滋賀県近江八幡市	分析・測定、環境保全サービス																																																				
	(資) 加藤吉平商店	福井県鯖江市	清酒製造業（北陸 AJEC 会員）																																																				
	(株) 最上インクス	京都府京都市	精密薄板加工、精密金型																																																				
	(株) 能作	富山県高岡市	鋳鉄鋳物製造業																																																				

アクションプラン実施項目	2020年度（令和2年度）事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>テーマ 「DX、高度外国人材、地域の魅力を国際化にどう活かすか」</p> <p>モデレーター 北陸AJEC企画部会委員長 丸屋 豊二郎氏</p> <p>パネリスト (株)鈴木栄光堂 代表取締役 CEO 鈴木 伝氏（提言1「デジタル技術の活用」） (株)中農製作所 取締役社長 西島 大輔氏（提言2「高度外国人材の活用」） (株)能作 代表取締役社長 能作 克治氏（提言3「果敢なグローバル化」）</p>	
	<p>2. 情報発信</p> <p>(1) 情報収集</p> <p>○ASEAN 諸国、対岸諸国等の政治経済情報（北陸AJEC）</p> <p>○北陸企業の海外進出状況、北陸港湾の貨物取扱量等に関する統計情報（北陸AJEC）</p>	<p>○関係機関等が開催する各種セミナーへの参加により情報収集を行った。</p> <p>コロナ禍によるセミナーの開催中止等があったものの、ウェビナーへの参加により必要な情報収集を行った。</p> <p>○北陸企業の海外進出状況、北陸港湾・空港の貨物取扱量に関する情報を収集し機関紙「Warm TOPIC」に掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2019年 北陸の港湾貨物取扱量実績」 「Warm TOPIC Vol.153 5/6月号」（4月発行）に掲載 ・「2019年度 北陸の空港利用状況」 「Warm TOPIC Vol.154 7/8月号」（6月発行）に掲載 ・「北陸三県企業の海外進出状況」 「Warm TOPIC Vol.157 1/2月号」（12月発行）に掲載 	
	<p>(2) 情報発信</p> <p>○機関紙「Warm TOPIC」の発行（北陸AJEC）</p>	<p>■Warm TOPIC 5/6月号 (Vol.153) 4月13日発行</p> <p>○寄稿 「混乱続く香港情勢とビジネス環境への影響」 亜細亜大学アジア研究所 遊川 和郎 「外資系小売企業の日本展開：コストコ・ホルセー・ジャパンの事例研究」 富山大学経済学部 鳥羽 達郎</p> <p>○定例報告 「中国の身分証番号、実名登録制度について」 富山県 大連事務所 中山 聖也 「シンガポールのサイバーセキュリティについて」 北國銀行 シンガポール事務所 北村 渚帆 「北陸企業で活躍する留学生OBの紹介」 北陸電力送配電(株) 富山送配電支社 鄧 海林氏（中国） 2019年入社 「2019年 北陸の港湾貨物取扱量実績」 北陸AJEC</p> <p>■Warm TOPIC 7/8月号 (Vol.154) 6月9日発行</p> <p>○寄稿 「厳しさを増した最近の韓国経済と日韓経済関係」 中曽根平和研究所 百本 和弘 「新しい貿易実務の動き」 日本貿易振興機構（ジェトロ） 石川 雅啓</p> <p>○定例報告 「中国におけるコロナ禍からの回復状況」 石川県上海事務所 大川 賢誠 「感染収束後の中国～依然として残る影響～」 北陸銀行 上海事務所 桃井 孝昌 「2019年度 北陸の空港利用状況（小松・能登・富山空港）」 北陸AJEC</p>	<p>大学・研究機関、北陸三県・地銀との連携の下、専門的な知見に基づく政治経済情勢や海外現場の生の情報を発信した。</p>

アクションプラン実施項目	2020年度（令和2年度）事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>■Warm TOPIC 9/10月号 (Vol.155) 8月7日発行</p> <p>○寄稿 「米中対立とコロナ禍に揺らぐアジアの通商秩序」 杏林大学 馬田 啓一 「新型コロナウイルスの世界経済への影響を予測する」 アジア経済研究所 熊谷 聡</p> <p>○定例報告 「台湾のサービス関連業者が行う防疫措置について」 富山県 台北ビジネスセンターデスク 平川 正紘 「タイのロックダウン体験記」 福井銀行バンコク事務所 永田智浩</p> <p>■Warm TOPIC 11/12月号 (Vol.156) 10月9日発行</p> <p>○寄稿 「米中対立と世界経済、その収斂と分断の構造」 福井県立大学 池下 譲治 「新型コロナによる日系企業への影響と、今後のビジネスの見直し」 日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部 古川 祐</p> <p>○定例報告 「中国の感染第二波と経済回復」 福井県上海事務所 藤田 智 「シンガポール議会総選挙 GE2020」 北陸銀行シンガポール事務所 上原 清志 「北陸企業で活躍する留学生 OB の紹介」 (株)アイ・オー・データ機器 Mega Christivana 氏 (インドネシア) 2018年入社 「2019年世界コンテナ取扱港湾ランキングにみる世界経済の変化」 城西大学 神田 正美</p> <p>■Warm TOPIC 1/2月号 (Vol.157) 12月9日発行</p> <p>○寄稿 「バイデン大統領・ハリス副大統領時代の始まり」 桜美林大学 滝井 光夫 「重要性を増すインド太平洋構想～問われる中国の影響力拡大への対応～」 亜細亜大学 石川 幸一</p> <p>○定例報告 「シンガポールアンテナショップの開設とオンライン金箔体験の実施について」 石川県シンガポール事務所 濱家 大士 「コロナ禍におけるタイの最新の経済情勢について」 北國銀行バンコク駐在員事務所 砂塚 博希 「北陸三県企業の海外進出状況」 北陸 AJEC</p> <p>■Warm TOPIC 3/4月号 (Vol.158) 2月10日発行</p> <p>○寄稿 「バイデン新政権の対中政策と米国ビジネスへの影響」 日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部 若松 勇</p> <p>○講演録(2020年度 北陸 AJEC 特別講演会) 「アメリカ大統領選後の米中関係と日本経済の行方」 日本国際問題研究所客員研究員・現代中国研究家 津上 俊哉</p> <p>○定例報告 「台湾における県内企業の活動事例 Momentum Factory Orii」 富山県 台北ビジネスセンターデスク 平川 正紘</p>	

アクションプラン実施項目	2020年度（令和2年度）事業計画	実施状況	評価・方向性
		<p>「驚愕！タイでのスマートフォンの使い方」北陸銀行バンコク駐在員事務所 田中 宏知 「北陸企業で活躍する留学生OBの紹介」 (株)金沢アドベンチャーズ アレハンドロ ファジャ氏(グアテマラ) 2020年入社</p> <p>■特別講演会 「アメリカ大統領選後の米中関係と日本経済の行方」 津上俊哉 氏（日本国際問題研究所客員研究員・現代中国研究家） 2020年12月10日(木)15時-17時 金沢ニューグランドホテル「金扇の間」 参加者84名（会場35名・オンライン49名）</p>	
(2) 環境変化に対応した交流事業の方向性検討・実施	<p>3. 交流事業</p> <p>(1) 北陸・韓国経済交流会議の効果的な実施 ○「第20回北陸(日本)・韓国経済交流会議」</p> <p>(2) 海外諸国（環日本海、ASEAN諸国）との経済交流促進</p> <p>①ベトナム 1) 「第5回 ベトナム政府高官との経済交流会議」 ・政策研究大学院大学(GRIPS)との連携事業 ・4月中旬に開催</p> <p>2) 「ベトナム セミナー in 北陸」 ・在大阪総領事館、北陸・ベトナム相互企業進出促進協会との連携事業 ・日程未定</p> <p>②インドネシア 「第3回 インドネシア行政官との経済交流会議」 ・政策研究大学院大学(GRIPS)との連携事業 ・8月31日 福井県で開催予定</p> <p>③タイ 「北陸・タイ経済交流会議」 ・富山県との連携事業 ・日程未定</p> <p>④ミッションなどへの参画 北陸ベトナム相互企業進出促進協会、富山県新世紀産業機構、JICAなどのミッション参画を検討する</p> <p>⑤その他 「在大阪米国総領事館と米国進出北陸企業との座談会」開催協力</p>	<p>・2020年度の開催については、環境が整った時点で、開催について検討していく。 ・2020年7月、韓日経済協会に対し、環境が整わず開催が難しいため、本年度会議の休会を伝える。 ・2020年12月、日韓事務局間で次年度について打ち合わせをしたが進展はなく、環境が整った時点で再度打ち合わせることとなった。</p> <p>・2020年4月中旬に福井県で開催予定であったが、コロナ禍により延期。 ・2020年7月：ベトナム側が訪日を断念。本年度の会議中止が決定。</p> <p>・在大阪総領事館と打合せの結果、コロナ禍によりセミナーの開催を断念。 次年度はオンライン開催も含め検討することとなった。</p> <p>・インドネシア行政官は2019年10月よりGRIPS（東京）で1年間の研修実施中であったが、2020年7月GRIPS側がコロナ禍で地方への移動は回避すべきと判断し、開催中止が決定。</p> <p>・関係者間で本年度開催の見送りを決定。</p> <p>・本年度の海外ミッション派遣は全て中止となった。</p> <p>・本年度の開催は見送りとなった。</p>	<p>・今後も「環境が整う」か、日韓関係の状況を注視していく。</p> <p>・来年度は、各経済交流会議について、開催の方向で調整に入り、コロナ禍の状況に応じて対応していく。</p>

アクションプラン実施項目	2020年度（令和2年度）事業計画	実施状況	評価・方向性
	<p>【国際交流推進委員会単独事業】</p> <p>①インド 第2回 北陸・インド経済交流会議 ・富山インド協会と連携し、富山県で開催検討。 ・日程未定</p> <p>②関西経済連合会（*）ABCプラットフォームとの連携 第2回 ABC 全体会議（シンガポールにて開催、時期調整中）への参画 （*）ABC（Asia Business Creation）とは、関西経済連合会と ASEAN7 各国（インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）の商工会議所等が、新たなビジネス創出を目的として立ち上げた会議</p> <p>③AJEC 対応地域国外 関係事業の推進 ・都度、必要に応じて対応（セミナーの開催なども含む）</p>	<p>・2020年6月：富山インド協会と開催を検討していたが、同協会が今年度の全てのイベント中止を決定。それに伴い、今年度の開催は見送ることとした。</p> <p>・第2回 ABC 全体会議はオンライン開催（2020年9月）。 ・ABCプラットフォームのHP上に北陸企業10社程度掲載が決定。 掲載希望企業を募集の結果下記決定（2020年9月～2021年3月に順次掲載） 富山県：廣貫堂、 石川県：ホクショー、会宝産業、金沢工業大学国際高専 福井県：秀峰、武生特殊鋼材、福井シード</p> <p>1. 2020年8月 Nordic Innovation House が東京に開設され Niklasa 代表とオンラインで面談・情報交換を実施。今後北欧発 Startup 情報等の入手が可能となる ※Nordic=北欧5ヶ国。スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク、アイルランド。</p> <p>2. 在日フランス商工会議所中部デスク（名古屋）が2020年1月に開設された。 ペイセレ代表と面談・情報交換を実施（2020年11月）。</p>	
	<p>4. 関連機関との連携</p> <p>(1) 関係機関と連携した ASEAN との経済交流促進</p> <p>(2) 北陸経済連合会「総合対策委員会」、「先端技術推進委員会」への協力 ・留学生の活用促進、グローバル人材の育成支援</p> <p>(3) 【計画外】</p>	<p>・関西経済連合会が進める ABC プラットフォームとの連携推進中。（上述）</p> <p>・1. 調査研究「先進事例にみる北陸企業の国際化のあり方に関する調査」において、デジタル技術の活用と高度外国人材の活用をテーマに取り上げ、先進事例を踏まえてテーマ毎に以下の提言を行った。</p> <p>【デジタル技術の活用】</p> <p>① 情報収集、デジタルと現場のマッチングおよび取引先との連携 ② 現場の視点を持つデジタル人材の育成</p> <p>【高度外国人材の活用】</p> <p>① 専門知識/能力を活かせる環境整備とロールモデルの提示 ② 定着・活用に向けた日本語学習等のサポート</p> <p>○中部経済産業局の海外企業進出調査への協力 以下のとおり、訪問企業をアレンジ、訪問日時を調整（当日、中部経済産業局に同行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年10月13日 横山商会、会宝産業 ・2020年10月14日 小矢部精機、三光合成 ・2020年11月18日 北菱電興、ヤギコーポレーション ・2020年11月10日 黒田化学、五洲薬品 	

2020 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（広域観光推進委員会）

アクションプラン実施項目	2020 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
<p>(1) 北陸三県の観光業界が一体となった広域観光の推進 ① 「北陸観光サロン」等の開催による連携強化</p>	<p>○ 「北陸三県誘客促進連携協議会」との連携 ○ 「北陸広域観光推進協議会」との連携 ○ 「北陸イメージアップ推進会議」との連携 ○ 「北陸観光サロン」等の開催による連携強化</p>	<p>○ 関係機関の総会・幹事会で決定された事業計画に基づき、当会と連携して各々の事業を実施 ・ 「北陸三県誘客促進連携協議会（総会）」 （5/21：書面決議） ・ 「北陸広域観光推進協議会（総会）」 （5/26：書面決議） ・ 「北陸イメージアップ推進会議（第1回幹事会）」 （5/13：書面決議、8/5：書面決議） ・ 北陸ディステーションキャンペーン（DC）・福井敦賀開業について、北陸三県よりJR西日本金沢支社への申請は、開業時期の延期を踏まえ、申請手続き延期</p> <p>○ 「北陸観光サロン」等の開催 ・ 第10回北陸観光サロン（2021.4/12）を（一社）中央日本総合観光機構との合同で開催予定〔基調講演：JTIC.SWISS 代表 山田桂一郎氏、フランス政府対外貿易顧問委員会副会長 マニグリエ真矢氏 他〕</p>	<p>○ 関係機関において、事業計画に基づき、着実に事業を実施しており、今後もより効果的な事業を実施する。</p> <p>・ 北陸新幹線福井・敦賀開業（2024年春）に向けた取組みについて、関係機関と協議・調整していく。</p> <p>○ 「北陸観光サロン」等の開催 ・ 開催に向けて、関係機関と協議調整を実施し、今後も必要な情報を提供する。</p>
<p>② 観光産業を担う人材育成への取組み</p>	<p>○ 観光産業の魅力の向上に向けた取組みについて検討する。（「北陸近未来ビジョン」の実現に向けて）</p>	<p>○ 「観光産業の魅力の向上に向けた取組内容及びその方法に関する調査」を（一財）北陸経済研究所に委託し、文献調査・有識者（大学・観光関連企業他）ヒアリングを踏まえ、報告書を作成中。 <提言内容> 1. 観光産業の生産性向上に向けた取組み ex. ICT活用、業務改善、マルチタスク化 2. 地域の魅力を発信できる人材の呼び込み及び人材の育成 ex. 働く人にフォーカスした業界のPR、創造性のある若手社会人とのつながる仕組みづくり 3. 高付加価値サービスの提供 ・ 所でしかできない体験を価値とする観光資源の創出 ・ 観光資源には歴史や文化などストーリー性を持ったアプローチが必要 ・ 人が生み出すサービスにこそ価値が生まれる ex. 地域ブランディング研修会 4. 行政も含めた地域のブランド力の向上 ex. シビックプライド醸成のためのキャンペーン 他</p> <p>○ 地域の観光産業の強化・発展を推し進める中核人材を育成・強化するための観光庁・北陸先端科学技術大学院大学による「観光コア人材育成スクール」を支援・参加</p> <p>○ 11/25 講演会「With/After コロナにおける取り組みと今後の展望～不確実な時代を生き抜く、新たな日常で共創を生み出すヒント～（金沢ニューグランドホテル・オンライン配信）」北陸先端科学技術大学院大学教授 敷田麻実氏を開催し、効果的な人材育成と働き方他を提唱</p>	<p>○ 観光産業の魅力向上に向けた取組み ・ 観光産業の持続的な発展のため、観光産業の魅力の向上に向けた取組みについて、生産性の向上・高付加価値サービス提供・観光産業の人材育成など、調査報告書の提言内容を踏まえ、講演会・セミナー等による情報提供を実施する。</p> <p>○ 観光産業を担う人材育成への取組み ・ 観光人材の育成について、大学生観光まちづくりコンテストの2021年度開催の検討も含め、地元の大学関係者及び学生の参加などを通じた人材育成の強化を図る。</p>

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(2) 国内外に向けた北陸の魅力のより効果的な発信 ① インターネットを使った国内外への情報発信	○「北陸物語」HP・FBによる情報発信 ・北陸物語 HP をリニューアルする ・北陸物語 FB による情報発信（5回程度/週）	○北陸物語 HP・FB による情報発信 ・北陸物語 HP の全面的リニューアルを実施し、新たに Instagram を開設（10/2）。リニューアルにより利用しやすくなるようにイメージの刷新・女性を意識したページデザイン・北陸女子旅コンテンツの提供・北陸三県の最新情報（News/Pickup 情報）の提供など工夫。 ・Instagram 開設プレゼントキャンペーン（11/16～翌 1/31）を予定していたが、Facebook 社の広告審査結果により不承認のため中止。また、新たなキャンペーン（2021.1/15-2/28）を予定していたが、2021.1/8 からの緊急事態宣言（東京・埼玉・千葉・神奈川）の発令を受け、延期。 ・北陸物語 HP 内の「JR 北陸物語」の情報を春・夏・秋の3回更新。また、冬のキャンペーン「Japanese Beauty Hokuriku」を実施中。	○インターネットを使った国内外への情報発信 ・北陸物語 HP・FB・Instagram による情報発信を今後も継続していく。 また、内容の充実化について継続実施する。 ・緊急事態宣言により延期となったキャンペーンについて、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、実施する。
② 北陸新幹線ルートを加えた太平洋側との「ゴールデンループ」の形成	○ゴールデンループの PR ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み	○ゴールデンループの PR ・名刺の裏面への掲載、会議等での PR チラシ配布の実施 ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み ・北陸物語 HP・FB・Instagram による北陸の魅力の情報発信を実施 ・特に、北陸物語 HP のリニューアルにより「自然・歴史・伝統・文化・心・温泉・食」の7つのカテゴリーで、情報発信を実施	○ゴールデンループの PR ・様々な機会を通じて PR 活動を実施しており、今後も PR について、継続していく。 ○「北陸文化」としてのブランド化に向けた取り組み ・全事業を着実に実施することで「北陸文化」を発信。 ・地域のブランド力向上のため、北陸物語 HP・FB・Instagram による北陸の魅力の情報発信を継続する。[ex. (1) ②の提言を参考]
③ インバウンド観光の促進	○インバウンド観光の促進 ・北陸物語 HP による情報発信 ・北陸物語 FB（英語）による情報発信（1回/月） ・会員企業の駐在事務所を活用した情報発信 ・昇龍道プロジェクト推進協議会及び中央日本総合観光機構との連携による取り組みに参加	○インバウンド観光の促進 ・8/5、新型コロナウイルス関連等を踏まえ、北陸イメージアップ推進協議会事業計画の見直しの結果、「北陸物語 HP リニューアル（英語版）」・「北陸物語 FB（英語）による情報発信（1回/月）」について、事業を中止。 なお、代替事業として、7/20 三県知事懇談会での意見を踏まえ、GoTo トラベルキャンペーンにおける北陸三県連携広告を実施（9/1）	○インバウンド観光の促進 ・昇龍道プロジェクト推進協議会及び中央日本総合観光機構との連携による取り組みに、引き続き参加し、北陸三県との連携強化を図る。
(3) 関東、関西、中部をはじめとする大都市圏との交流拡大 ① 首都圏・関西圏でのイメージアップイベントの実施	○首都圏・関西圏でのイメージアップイベントの実施 ・京浜急行電鉄との連携事業 ・関西圏でのイメージアップイベントの実施 ・NEXCO との連携事業	○首都圏・関西圏でのイメージアップイベントの実施 ・京浜急行との羽田での北陸プロモーション中止（新型コロナウイルス感染症関連を踏まえ） ・関西圏のイベントについて、北陸三県との合同実施を検討したが中止（新型コロナウイルス感染症関連を踏まえ） ・NEXCO 事業である「北陸シネレーション冊子」掲載者の紹介及び「ISHIKAWA CONNECT」カード・地域の魅力発信事業への関係機関の紹介	○首都圏・関西圏でのイメージアップイベントの実施 ・京浜急行との羽田での北陸プロモーションについて、2021 年度の開催について、過去5回実施の効果検証も踏まえ、新たな取り組みも含め検討し、実施する。 ・関西圏のイベントについて、関係機関との合同開催も含め検討し、実施する。 ・NEXCO との連携事業について、継続して実施する。
② 経済団体、JR 他、関係機関との連携による交流事業への取り組み	○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組 ・「昇龍道プロジェクト推進協議会」への参画 ＊推進協議会への参加 ・「中央日本総合観光機構」への参画	○「昇龍道プロジェクト推進協議会」への継続参画（久和会長が副会長） ・昇龍道連絡調整会議への参加により取組事業の情報収集を実施。（7/30、10/30、3/3） ・協議会へ参加（3/12）〔2020 年度活動報告・2021 年度活動方針（案）の審議〕 ○「中央日本総合観光機構」へ継続参画（久和会長が副会長） ・理事会・総会への参加等により取組事業の情報収集を実施。（5/21、5/28、6/19、11/6、3/22） ・11/25 講演会「With/After コロナにおける取り組みと今後の展望～コロナ禍で加速する観光デジタル化～（金沢ニューグランド 杉ル・オンライン配信）」と題して、中央日本総合観光機構 常務理事兼事務局長 荻野光貴氏を開催し、インバウンド観光事業について説明 ・DMO 連携委員会への参加により取組事業の情報収集を実施。（3/24） ・第 10 回北陸観光サロンを合同セミナーとして開催予定（2021.4/12）	○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組 ・インバウンド需要の取り込み及びそのための広域周遊観光の推進に引き続き取り組むため「昇龍道プロジェクト推進協議会」・「中央日本総合観光機構」へ継続参画する ・「中央日本総合観光機構」による観光地域づくりのテーマ「日本海の幸と酒」「匠の技」など北陸三県と連携して内容の充実化を図る。

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(4) 観光客の増加に伴う諸問題への取組み ① 外国語表示・Wi-Fi 整備等	○ 外国語表示・WiFi 整備等 ・ 観光インフラに対する要望の実施 ・ 観光客の減少に伴う対応（新型コロナウイルス感染症関連）	○ 外国語表示・WiFi 整備等 ・ 観光・交通案内板の多言語表記など観光インフラに対する北経連政府要望の実施（9/3） ex) ・ 観光・交通案内板（バスロケーションシステムや多言語表記等）、観光・案内所に対する支援の拡充 ・ 災害発生時における外国人観光客等への避難・安全情報や交通情報等の伝達環境の整備 ・ 北陸への観光客増加に資する二次交通の充実に向けた支援他 ・ 「2019年度案内表示等の多言語表記調査（報告書）」を作成し、主な観光案内所・駅・バス停・観光地・道路案内表示などの多言語表記の現状と課題を調査・分析し、指摘事例等（課題）及びその対応の方向性について、とりまとめを実施したことから報告書の概要について、マスコミ公表を実施。（7/30） ・ 三県知事への緊急要望（4/28 三県へ郵送、4/30プレスリリース） ・ 政府要望活動（9/3-4） ex) （緊急性の高い対策） ・ 実質無無利子・無担保融資や各種給付金の支給を通じた資金繰り支援等の強力な金融支援 ・ 雇用調整助成金の特例措置の拡大・延長と申請手続きの簡素化による迅速な至急の実施 他 （景気回復に向け対策） ・ 高速道路料金の大幅な割引制度の導入、宿泊業等の観光関連業・小売業・運輸業等向けの料金割引制度の導入、インバウンド回帰等に向けたジャンパンモデルとしての安全対策指針の策定や衛生管理に関する公的機関の認証制度創設等による感染症対策の強化等 他	○ 外国語表示・WiFi 整備等 ・ 「2019年度案内表示等の多言語表記調査（報告書）」等を踏まえ、観光インフラに対する政府等への要望を継続実施する。 ・ 観光客減少に伴う対応（新型コロナウイルス感染症関連）について、状況を踏まえ、政府等への要望を継続実施する。
(5) 新たな視点での観光資源の発掘 ① 長期的視点に立った発掘 ・ 長期滞在型観光の促進に向けた調査提言 等	○ 観光に係るデータの更なる充実化を図り、観光データ等の分析に基づく広域観光戦略を検討する。 ○ 他地域の広域DMOの現状把握等。	・ 「データで見る北陸」のデータ更新について、実施。 ・ 登録件数：174件（2021.1/7時点） （広域連携DMO：10件、地域連携DMO：83件、地域DMO：81件） ・ （公社）福井県観光連盟のDMO登録の動き 現在、DMO候補法人（2021.1/7時点）	○ 観光に係るデータについて、現状把握のため、更新作業を継続して実施する。 ○ （一社）中央日本総合観光機構と北陸三県が更なる連携を図ることで、北陸への誘客に向けた取組みを引き続き実施していくよう関係機関と調整を図る。
② 女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備	○ 女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした観光モデルコースを策定し、情報発信する。	○ 女性ニーズにマッチした観光地の情報発信 ・ 北陸物語HPリニューアルにより女性ニーズにマッチした観光スポットを掲載（10/2） ex) 4つのテーマ（おとめ旅、おやこ旅、きまま旅、おとな旅） ※おとめ旅：美人になれる旅・フォトジェニックな旅 ※美人になれる旅：宇奈月温泉・庄川温泉、石川県西田幾太郎記念哲学館・鈴木大拙館、毛谷黒龍神社・御清水	○ 女性ニーズ・外国人ニーズ ・ 女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートについて、関係機関との連携・協力に基づく情報発信について、引き続き実施していく。

アクションプラン実施項目	2020年度事業計画	実施状況	評価・方向性									
<p>③ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育観光と産業観光を組み合わせたニューツーリズム ・歴史、スポーツなどのニューツーリズム ・産業観光における時代別、分野別等のルート策定 	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北陸3県修学旅行誘致推進プロジェクト」との連携（教育旅行に、産業観光の組み合わせも継続提案） ・北陸物語HPのリニューアルに併せて、テーマ別観光について検討し、情報発信する。 ・北陸物語HPのリニューアルに併せて、テーマ別観光について検討し、情報発信する。 	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行誘致を3県、JRと連携し、以下の取組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> *北陸三県修学旅行プロモーション動画を作成中 *教育旅行専門誌への広告出稿（2021.1月号）月刊『教育旅行』（公益財団法人日本修学旅行協会発行） *2023年度向け修学旅行説明会（2021.2/17 林ノ木味'リタノド'モト）については、中止（新型コロナウイルス感染症の影響） *2021.3/1-19、オンライン商談会開催（地元事業者と旅行会社とのマッチングの実施） <p><北陸新幹線連合体輸送による修学旅行実績></p> <table border="1" data-bbox="1430 520 2101 661"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>学校数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019年度（実績）</td> <td>13校</td> <td>1,962名</td> </tr> <tr> <td>2020年度（見込）</td> <td>9校</td> <td>998名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸物語HPリニューアルにより歴史を感じられる観光スポットを掲載（10/2） ex) 岩瀬まちめぐり・高岡古城公園、加賀百万石回遊ルート・三茶屋街、丸岡城・一乗谷朝倉氏遺跡・ ・北陸物語HPリニューアルにより産業観光のスポットを掲載 ex) ファスナー作り（YKK）・鋳物制作対面（能作）、すず塩田村・金箔化粧品専門店 KINKA、タケフビレッジ・めがねミュージアム 	時期	学校数	人数	2019年度（実績）	13校	1,962名	2020年度（見込）	9校	998名	<p>○ニューツーリズムの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行誘致に関して、3県、JRの主導する「北陸3県 修学旅行誘致推進プロジェクト」と引き続き、連携していく <ul style="list-style-type: none"> ・ニューツーリズム（歴史等）について、関係機関との連携・協力に基づく情報発信について、引き続き実施していく。 なお、歴史探訪など北陸物語（Vol1-3）及び北陸広域観光モデルコース（改訂版）等を参考とする。 ・産業観光進展に向けた取組みについて、北陸財務局のプラットフォームの経過報告を踏まえ、引き続き情報収集する。
時期	学校数	人数										
2019年度（実績）	13校	1,962名										
2020年度（見込）	9校	998名										

2020年度 決算報告書

1. 貸借対照表 2021年3月31日現在

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	38,559,825	西経協總會引当金	2,800,000
立替金	9,700	創立60周年事業引当金	3,000,000
敷金(北国不動産)	1,496,480	情報機器整備引当金	3,000,000
		退職給与引当金	1,627,064
		敷金(北国不動産)	1,496,480
		預り金	70,520
		剰余金	28,071,941
合計	40,066,005	合計	40,066,005

2. 収支計算書 2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入	68,354,000	事業費	35,503,279
協力金	700,000	会議費	1,194,195
雑収入	740,294	人件費	9,512,254
		事務費	20,664,292
		引当金	2,900,000
前年度繰越金	28,051,667	剰余金	28,071,941
合計	97,845,961	合計	97,845,961

2020年度 北経連 収支

(収入の部)

(単位:円)

	2020年度		差引	摘 要
	予算額	決算額		
会費	68,740,000	68,354,000	▲ 386,000	退会4社▲63万円、入会7社+25万円
協力金	700,000	700,000	0	石川県商工会議所連合会から
雑収入	600,000	740,294	140,294	各種会合交通費謝金等
収入合計(A)	70,040,000	69,794,294	▲ 245,706	

(支出の部)

(単位:円)

	2020年度		差引	摘 要 (万円未満 切り捨て)	
	予算額	決算額		予算	決算額
事業費	49,350,000	35,503,279	▲ 13,846,721		
委員会活動費	23,800,000	16,509,568	▲ 7,290,432	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合対策委員会 860万円 784万円 ・ 先端技術推進委員会 350万円 267万円 ・ 社会基盤整備委員会 300万円 130万円 ・ 広域観光推進委員会 500万円 253万円 ・ 国際交流推進委員会 340万円 170万円 ・ 広報・組織基盤委員会 30万円 45万円 	
連携活動費	25,550,000	18,993,711	▲ 6,556,289	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員懇談会等 390万円 236万円 ・ 他経済団体との懇談会等 640万円 513万円 ・ 行政との懇談会 200万円 203万円 ・ 関係団体への支援 685万円 605万円 ・ その他事業費 640万円 341万円 	
会議費	2,300,000	1,194,195	▲ 1,105,805	理事会、総会を书面審議としたため、会場費・懇親会費用減	
人件費	9,600,000	9,512,254	▲ 87,746		
事務費	23,000,000	20,664,292	▲ 2,335,708	経団連委員会出席等の出張減による出張旅費 予算比▲90万円 打ち合わせ、懇親会の減による諸経費 予算比▲55万円 HP改修費 予算比▲50万円 事務所レイアウト変更費用 予算比▲18万円 テレワーク、オンライン配信対応機材購入 予算比+38万円	
支出合計(B)	84,250,000	66,874,020	▲ 17,375,980		
単年度収支(A-B=C)	▲ 14,210,000	2,920,274	17,130,274		

(剰余金の部)

(単位:円)

	2020年度		差引	摘 要
	予算額	決算額		
前年度繰越金(D)	28,051,667	28,051,667	0	
剰余金(C+D=E)	13,841,667	30,971,941	17,130,274	
引当金(F)	2,900,000	2,900,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立60周年事業引当金 100万円 100万円 ・ 西経協総会引当金 70万円 70万円 ・ 退職給与引当金 20万円 20万円 ・ 情報機器等整備引当金 100万円 100万円
繰越金(E-F)	10,941,667	28,071,941	17,130,274	

引当金残高	期首	期末
・ 創立60周年事業引当金	2,000,000円	3,000,000円
・ 西経協総会引当金	2,100,000円	2,800,000円
・ 退職給与引当金	1,427,064円	1,627,064円
・ 情報機器等整備引当金	2,000,000円	3,000,000円
	計 7,527,064円	10,427,064円